

JR東海労ニュース

No.2626

2021年10月11日

JR東海労働組合



2021年度冬のボーナス満額を勝ち取ろう！ シリーズ④

3,526,766,000,000円

これがJR東海の内部留保（利益剰余）金だ！

社員の皆さん、JR東海の利益剰余（内部留保）金の金額を知っていますか？ その金額にビックリしますよ！ JR東海の利益剰余金は、何と3兆5,267億6,600万円もあります（JR東海「令和3年3月期決算短信」より）。

利益剰余金とは、「簡単に言うと、会社が稼いだ利益の累積額」（※注）です。「流動資産」の「現金及び預金」の額も、3,405億900万円もあります。

会社は、これまで散々に社員をこき使ったため込んできた利益剰余金をいつ使う気なのでしょうか？ 使うなら「今でしょ！」。

コロナ禍における「赤字経営」下においてさえ、兆単位の利益剰余金をため込み、現金及び預金も3,000億を超えているのです。使えない（使わない）会社は社員の生活のことなど微塵も考えていないとしか言いようがありません。

日本の大動脈の東海道新幹線を経営し、リニアを自前の資金で建設すると言っているJR東海なら、今期は黒字経営も予想しているのですから、ここは利益剰余金を取り崩してでも満額を支払うべきです。

そして経営陣が待ち望んでいるように、東海道新幹線のお客様が以前のように戻ってきたなら、今年の期末手当で会社の言う「安定的支給ベース」から減額した分を、最低でも補填（還元）すべきですが、社員の皆さんはどう思いますか？

※注「株のはじめ方 (https://kabukiso.com/column/retained_earnings.html) 」より抜粋